

平成 21 年度 事業報告書

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用することにより、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいつくり、社会参加が促進された。

(支出額) 22,488,546 円

(1) さっぽろ市民カレッジ

年 3 期 (平成 21 年 4～8 月、9～12 月、平成 22 年 1～3 月)、市民及び市内勤務者を対象に、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の 3 つの系を柱に、年間 225 講座を実施した。

また、学習成果の活用及び市民参画を進めるために、市民自らが講座を企画し、講師を務める「ご近所先生企画講座」を、市内のコミュニティ施設と連携実施し、全市的な事業展開を図った。

(会場数 7 区・11 会場 開講数 105 講座 受講者数 1,692 名)

【実績】全 225 講座

(市民活動系 21 講座／産業・ビジネス系 10 講座／文化・教養系 194 講座)

受講者数 4,438 名／修了者数 3,724 名

学位取得者「学士号」12 名、「修士号」4 名、「博士号」6 名

学位取得者累計「学士号」57 名、「修士号」33 名、「博士号」25 名

(2) ジュニア・ウィークエンドセミナー

小中学生を対象に、学校週 5 日制に合わせて、週末を有意義に過ごすための学習の機会を提供した。

ア 札幌市生涯学習センター

札幌市教育委員会から業務を受託し、生涯学習センターの施設機能を活用したパソコンや料理の講座、また、他の関連団体とも協力して、様々な分野の体験・実践型の講座を、それぞれ毎月 1 回程度土曜日又は日曜日に実施した。

【実績】「体験教室」 受講者数 169 名

「親子料理教室」 受講者数 220 名

「親子パソコン教室」 受講者数 238 名

イ 札幌市青少年科学館

理科系知識の啓発を目的として、主に土曜日に小中学生を対象とした科学教室を札幌市教育委員会と共催で開催した。

【実績】参加者数 250 名（年 4 回実施）

(3) 生涯学習関連機関等連携事業

ア 連携講座の実施

さっぽろ市民カレッジにおいて、社会のニーズに応じた専門的かつ高度な知識経験を有する機関と連携し講座を実施した。

【実績】西区社会福祉協議会（2講座実施）

土木学会北海道支部（1講座実施）

イ 学社融合講座の実施

市立札幌大通高校と連携し、高校生と市民が共に学ぶ場を創出する新たな取り組みを実施した。学校科目にない「さっぽろ市民カレッジ」講座を大通高校を会場に開講し、異年齢学習の推進を図っている。なお、この講座を受講した高校生には高校から単位が認定される。

【実績】全10講座

ウ インターンシップの受け入れ

生涯学習センターにおいて北海道大学、札幌平岸高校、札幌啓北商業高校等の生徒を受け入れ、就業体験研修（インターンシップ制度）を実施した。

【実績】受入校 3 校 参加者数 29 名

エ まちづくり参加・入門教室の実施（受託）

手稲区から業務を受託し、地域のまちづくり活動に興味・関心を持つ市民を対象に、活動のきっかけづくりとなる講座を実施した。（平成 21 年 10 月）

【実績】受講者数 5 名

オ 地域学講座の実施（受託）

手稲区の小学生等を対象に、手稲区作成の歴史マップを活用して地域の歴史や文化を学ぶ業務（手稲歴史発見親子バスツアー）を受託し、地域のまちづくり活動のきっかけづくりとなる講座を 2 回実施した。（平成 21 年 8 月）

【実績】受講者数 39 名

カ まちづくり寄席の実施（受託）

手稲区から業務を受託し、ご近所づき合いからはじまるまちづくりの大切さを「笑い」と「江戸の文化」から学び、地域のまちづくり活動へつなげる公演を実施した。（平成 22 年 3 月）

【実績】参加者数 199 名

（４） 生涯学習センター施設機能活用事業

施設の利用促進や、新たな活用方法等の PR を目的に、技術研修室を活用し、親子を対象とした「マイ箸づくり体験教室」を実施した。

【実績】参加者数 33 名

（５） 視聴覚学習機会提供事業

ア オペラシアター

視聴覚センターが所蔵する音楽資料等の利用促進を図るために、映像教材（LD、DVD）を活用した質の高い芸術を学ぶ機会として、ちえりあホールにおいてオペラシアターを開催した。（年 6 回）

【実績】受講者数 729 名

イ 16ミリ映写機操作技術講習会

学習活動や地域活動の中で 16 ミリフィルムを利用する市民を対象に、操作技術の修得を目的とした講習会を、視聴覚ボランティアグループ「オンデマンド」の協力を得て実施した。（年 4 回）

【実績】受講者数 54 名

2 人材活用育成事業

(寄附行為第4条第2号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通じた市民活動及びまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

(効果) 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化を図ることができた。

(支出額) 1,260,680円

(1) 学習支援者育成・活用事業

さっぽろ市民カレッジ受講修了者の学習成果を活かすことを目的に、講座の講師(補助講師)として活躍する等、活動の場を提供する支援を行った。

ア 市民講師育成(ご近所講師の育成)参加者数115名

イ 市民ファシリテーター(ワークショップ関連の講座修了者)参加者数2名

ウ ちえりあビデオクルー(ビデオ撮影・編集関連の講座修了者)参加者数17名

(2) 生涯学習指導者研修事業

地域住民の学習活動を支援する職員の資質向上を図るため、区民センターや地区センター等の職員を対象に、地域住民の意見を引き出し、それをまとめていくコツと技を学ぶ研修講座を実施した。(平成21年11月)

【実績】参加者数14名

(3) 生涯学習ボランティア育成事業

ちえりあ学習ボランティアを中心とし、さっぽろ市民カレッジのボランティア企画講座や、ちえりあフェスティバル等、市民参加の充実を図るための研修会を実施した。

【実績】参加者数210名(研修回数10回)

(4) 天文指導員の養成

地域における天文普及活動を担う人材を育成するため、主に市内在住の学生及び一般の方を対象に、天文事業への参加や定期研修の実施により天文指導員を養成した。

【実績】登録者数 45 名 修了者数 5 名

(5) 科学館ボランティアの養成

自ら知を楽しむとともに他の利用者に楽しさを伝える科学館ボランティアを養成した。

【実績】登録者数 7 名

3 学習活動支援事業

(寄附行為第 4 条第 3 号に掲げる事業)

(目的) 生涯学習活動に関する様々な情報の収集及び発信、学習相談など幅広い市民の学習活動を支援するとともに、多様な視点から生涯学習活動のきっかけづくりを提供し、生涯学習の普及啓発を図る。

(効果) 全市的な広報及び事業を展開し、市民と地域に根ざした事業を実施することで、生涯学習活動の普及促進や、生涯学習と芸術・文化、地域との繋がりを深めることができた。

(支出額) 14,282,524 円

(1) メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索サービスなど、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 40,387 名

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア 生涯学習情報誌の発行

生涯学習関連施設・団体が実施している学習機会の情報を収集し一覧で提供する情報誌を発行した。

【実績】年1回発行（平成21年11月）計3,000部

イ ホームページの活用

イベント等の多様な情報の発信、講座やイベントのPRのための動画配信などを行った。

ウ 生涯学習センター広報誌の発行

生涯学習センターの機能や事業を広く市民へPRするとともに、市民と共同して制作した広報誌「L a C h i e r i a t t e（ら・ちえりあつて）」を発行した。

また、「L a C h i e r i a t t e（ら・ちえりあつて）」を活用し、文章の書き方など、広報誌づくりに必要な知識を実践的に学ぶ通年講座を、試行的に実施した。

【実績】発行数年4回（平成21年4・7・10月、平成22年1月）計60,000部

講座受講者数11名（平21年2月～12月 全24回）

(3) 生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル

市民との交流を深めながら生涯学習の普及啓発を図ることを目的として、生涯学習総合センターを会場に、ちえりあフェスティバルを3日間にわたり開催した。ちえりあロビー特設ステージにて、ロビーコンサートや、ご近所先生企画講座1日体験、びっくり料理ショーイベント、ちえりあ学習ボランティア企画による懐かしの童謡コンサート等を実施した。（平成21年8月）

【実績】3日間延べ参加者数15,327名

イ サークル発表会

ちえりあ、区民センター等で活動している舞踊やコーラス等のサークル団体が、学習成果を発表する場として、ちえりあホールにてサークル発表会を3日間にわたり開催した。（平成21年11月）

また、サークル発表会に併せて、11月13日から19日までの7日間、絵画・書道・染色等の工芸部門の11サークルが参加し、作品展示を行った。

【実績】参加団体数52団体（571名） 来場者数1,546名

(4) 共催事業

ア 中学校校内放送コンテスト（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

札幌市内中学校の放送局員が制作した放送番組及びアナウンサーのコンテストを開催した。（平成 21 年 7 月）

【実績】参加校数 6 校（17 名）

イ 中学校校内放送技術講習会（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

札幌市内中学校の放送局員の技術向上を図ることを目的とした講習会を実施した。（平成 21 年 8 月、平成 22 年 1 月）

【実績】8 月 参加校数 13 校（70 名）／1 月 参加校数 10 校（58 名）

ウ 日本映画名作祭 2009（共催：札幌映画サークル）

東京国立近代美術館フィルムセンターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、「日本映画」名作シリーズの小津監督の 4 作品を 2 日間上映した。開催にあたっては、札幌映画サークルの協力を得て、両者による実行委員会形式で実施した。（平成 21 年 11 月）

【実績】入場者数 1,741 名

上映作品「麦秋」「東京物語」「彼岸花」「秋刀魚の味」

(5) 視聴覚教材利用促進事業

視聴覚センターが所蔵する映像教材を活用し、市民が無料で鑑賞できる「ちえりあ映画会」を聴覚障害用字幕を制作しているボランティア団体「レインボー」の協力を得て開催した。また、夏休み・冬休み期間には、親子で楽しめる子ども向け作品を上映した。（年 6 回）

【実績】入場者数 1,675 名

(6) 文化振興事業

生涯学習活動のきっかけとして、質の高い芸術・文化に触れる機会を提供した。さらに、地域に根ざした芸術・文化の活性化を図り、その振興を目的として以下のイベント等を開催した。

ア ちえりあ寄席

日本の伝統芸能である「落語」の楽しさを知り、親しむ機会を継続的に提供するため、社団法人落語芸術協会と連携し、道内唯一の本格的な寄席形式の落語会「ちえりあ寄席」を開催した。（平成 21 年 8 月）

【実績】4 公演延べ入場者数 1,649 名

イ ちえりあ学生寄席

ちえりあ寄席のステージを活用し、落語等の伝統芸能を学ぶ学生（北海道大学落語研究会）の発表をちえりあ寄席の前夜祭として開催した。（平成 21 年 8 月）

【実績】 入場者数 242 名

ウ 落語学校鑑賞会

生涯学習センター近郊（西区、手稲区、中央区）の小学校の児童（4年生以上）を学校単位で無料招待して、寄席太鼓の実演や解説などを交えた、参加体験型の落語鑑賞会を開催した。（平成 21 年 6 月）

【実績】 6 公演延べ入場者数 1,193 名

（発寒南小、手稲東小、三角山小、幌西小、新発寒小、西宮の沢小）

エ ちえりあ特選若手落語会

落語学校鑑賞会の出演者による一般公演を開催し、「ちえりあ寄席」よりも低価で気軽に参加できる落語会を開催した。（平成 21 年 6 月）

【実績】 1 公演入場者数 388 名

オ さっぽろの歴史と音楽の夕べ～日本各地の唄探し“手稲区”の旅～

伊藤多喜雄氏が代表を務める NPO 法人フィールドワークスジャパン民俗芸能伝承学舎（東京）と連携し、手稲区の歴史や郷土芸能の伝承者によるトークを交えた地域住民参加型のコンサートを開催した。（平成 21 年 9 月）

【実績】 1 公演入場者数 251 名

カ ちえりあロビーコンサート

ちえりあ 1 階ロビーを会場に、公募で選ばれた市民による演奏会を実施。市民が芸術文化に触れる機会の提供と、ロビー空間の有効利用を図った。（年 10 回）

【実績】 参加団体 10 団体 観覧者数 延べ 850 名

キ カルチャーナイト

カルチャーナイト全体テーマ「ふれあい」にあわせ、ちえりあロビーでさっぽろ市民カレッジ講座紹介パネル展を開催した。（平成 21 年 7 月）

【実績】 参加者数 86 名

ク イマジン音楽祭

イマジン音楽祭実行委員会と共催して、平和教育を目的とし、小・中・高の児童・生徒が平和をイメージした詩を書き、それに地元の音楽家が曲を付けて発表するコンサートを、札幌市が行っている平和事業と連携して実施した。併せてちえりあロビーにて応募作品の詩や絵のパネル展示を行った。（平成 21 年 10 月）

【実績】 詩・絵の応募数 785 通／コンサート入場者数 171 名

ケ 市民カレッジ作品展

さっぽろ市民カレッジの受講生が描いた水彩画や鉛筆デッサン画、受講生が撮影した写真などの作品の展示会を、1週間にわたってロビーで実施した。(年6回)

コ ちえりあ-幼稚園児のお絵かき展

児童の学習活動を発表する場として5月から2月までの毎月1週間、市内の私立幼稚園児による絵の作品展示を、社団法人札幌市私立幼稚園連合会との共催により実施した。

【実績】参加園数 12園

4 調査研究事業

(寄附行為第4条第4号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 財団が有する専門性と生きた情報を元に行った調査研究により、事業内容の改善に活かすことができた。

(支出額) 333,500円

(1) 生涯学習に関わる調査研究

市民のニーズに即した生涯学習事業を企画するため、札幌市民の生涯学習のニーズとライフスタイルに関する調査を行った。

(2) 科学技術に関する資料の収集

青少年科学館の解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

(3) 天文資料の収集

天文に関する解説資料や出版物を収集するとともに、札幌市天文台及び移動天文車等を活用して観測天体写真を撮影し、資料として収集した。

5 生涯学習関連施設管理運営事業

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(1) 札幌市青少年科学館の管理運営

札幌市からの指定を受けて、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行った。

(支出額) 397,756,798 円

ア 展示事業の運営

(7) 常設展示

科学の原理や技術等を「見て」、「触れて」、「考える」ことができるよう、宇宙、北方圏、電気、化学などといった科学に関する多くのテーマに沿って設置している展示物を管理・整備するとともに、より楽しく、理解しやすい展示物にするための工夫を行い、来館者へより一層の科学への興味・関心を持ってもらえるよう努めた。

(4) 展示実演等

来館者が科学の原理や技術について理解を深められるよう、サイエンスショー、テレビスタジオ、低温展示室などの解説を交えた参加型の実演を行った。

(ウ) 特別企画の開催

・夏休み・冬休み特別展

常設展示では伝えきれない科学情報を提供するため、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた、体験型展示を中心にした特別企画を、小中学校の夏休みや冬休み等の期間に合わせて実施した。

| 夏の特別展「科学戦隊サイエンジャーⅣ『ど～なってるの？かんかくのふしぎ』」 | |
|---------------------------------------|--|
| 趣旨及び概要 | 普通に暮らしている時はあまり意識しない「人間の五感」をテーマに、感覚のメカニズムを解き明かしながら、実際に五感それぞれの不思議な「感覚」を体験してもらうことによって、人体について興味・関心を高め、また、知識を身につけてもらう。 |
| 実施期間 | 7月25日～8月23日(30日間) |
| 展示構成 | 感覚のメカニズムを学んでいただくとともに、五感それぞれについて、不思議な感覚を味わっていただけるように、会場を「導入部」「感覚のメカニズム」「不思議な感覚」「錯覚ミュージアム」「感覚検定」「感覚全開！夏祭り(実演)」「癒しの空間」に分割し、それぞれに体感型展示物や実演コーナーを配置した。 |
| 入館者数 | 61,486名 |

| 冬の特別展「大ロボット展 2010」 | |
|---------------------------|--|
| 趣旨及び概要 | 現在、様々な場所・目的において実用化されているロボットについて、動く仕組みや機能、さらには実用化されている最新ロボットを紹介し、来館者にロボットの知識を身につけてもらう。 |
| 実施期間 | 1月5日～1月17日（13日間） |
| 展示構成 | 導入部ではロボットの概念と現在に至るまでの歩みをパネルで紹介するとともに、新旧の案内ロボットを展示。ロボットの技術や仕組みを学ぶコーナー、人の暮らしに役立つロボットやロボットを操縦できるコーナー等を設け、ロボット技術の変遷をたどり、ロボットの現在・未来を紹介した。 |
| 入館者数 | 32,027名 |
| 春イベント「サイエンジャーのワンダーランド～春～」 | |
| 趣旨及び概要 | 主来館者層である小・中学生が、気持ちの面でも次のステップへ進む準備をするため「新たなスタートに向けて」を主テーマとして、工作や実験を体験してもらう。 |
| 実施期間 | 3月20日～4月4日（3/23・24は休館）（全14日間） |
| 展示構成 | 小さな子どもから大人まで、頭と体を使って楽しみながら科学を学んでいただけるように、作って遊べるコーナーや簡単な実験コーナー、不思議な体験ができる錯覚コーナー、パズルコーナー等を会場に配置した。 |
| 入館者数 | 29,119名 |

・巡回展・企画展等

話題性の高いテーマや特定のテーマを掘り下げた巡回展を実施し、常設展示では伝えきれない科学情報を提供した。

| 体験型実験装置群の巡回展「自然界の水 台風がやってきた」 | |
|------------------------------|---|
| 趣旨及び概要 | 台風というテーマを通して、次代を担う若者たちに地球規模の現象に関心を寄せ、自然科学を身近なものとしてより深く学んでもらう。 |
| 実施期間 | 10月3日～10月29日（10/5・13・14・19日は休館）（全19日間） |
| 展示構成 | 全8タイトル11機種の体感型の実験再現装置を配置し、台風の「なぜ？」をひとつひとつ、自分の手で実験しながら確かめることで、「水の性質」「太陽のエネルギー」「地球の自転」という自分の身の回りにある3つの自然のメカニズムから台風ができることが、「手に取るように」理解できるよう展示展開した。 |
| 入館者数 | 9,649名 |

(I) 講座・教室等

科学に親しみやすい実験、工作教室や講座等を行った。

| | |
|-----------------|--|
| 日曜実験室 | 子どもたちの「科学する心」を養うため、生活に密着した題材や遊びの要素を取り入れた実験教室を、66回実施した。 【実績】737名 テーマ：4月 「きみもめざそう コマ博士！」 5月～8月 「浮くか沈むか それが問題だ！」 9月～12月 「つりあうってどんなこと？」 1月～3月 「1mmってどれくらい？」 |
| 科学館の工作室 | <小中学生向け> 工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、90回実施した。 【実績】4,073名 「木工ねずみのチュー太郎」他26種類 <小学校高学年以上向け> より高度なものづくりに対する興味・関心を喚起することを目的に、小学校高学年から一般まで対象とした工作教室を実施した。 【実績】44名 「電子工作～でん電虫ラジオを作ろう！～」他 |
| サイエンジャー 科学教室 | 科学への興味や関心を喚起するため、小中学生を対象とした工作・実験等の科学教室を実施した。 【実績】11日25回590名 「パラパラまんがのひみつ」「乗り物でGO！」他 |
| 親子向け 実験・工作教室 | 親子で一緒に参加する事で、科学技術をより身近で親しみやすく感じてもらうことができる実験・工作教室を実施した。 【実績】3回58組107名 「虫型ロボットを動かそう」他 |
| 工作技術競技会 | 工作を通して科学への興味を喚起するため、紙飛行機やブーメランなどの実技も含めた工作会を実施した。 |
| バックヤード ツアー | 来館者の好奇心を満たし、また、満足度を高めるため、展示室内の普段見ることのできない裏側を見学する事業を実施した。 【実績】2回25名 |

(オ) 学校連携・支援事業等

主に市内小学校・中学校と連携して教室や講座を実施した。また、授業等への支援や、学校活動への支援を行った。

| | |
|--------------------|---|
| 移動科学館 | <p>小学校等に出向いて、実験や実演などを行い理科授業へ協力した。</p> <p>【実績】3校 106名</p> |
| 幼児のための出前サイエンス | <p>就学前の子どもが楽しみながら、科学に慣れ親しむことができるよう、幼稚園等へ出向き、遊びの要素を多く取り入れた実験・実演・工作教室を開催した。</p> <p>【実績】14園 2,128名</p> <p>「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」他</p> |
| 中高生による科学教室 | <p>中学校・高校の科学クラブを支援するため、研究成果をポスターセッション・実演・演示により発表させ相互交流を図る事業を実施した。(平成21年10月)</p> <p>【実績】6校 56名</p> <p>(宮の森中学校・札幌旭丘高校・札幌北高校・札幌清田高校・札幌第一高校・札幌藻岩高校)</p> |
| 大学生による科学教室 | <p>大学生等の科学研究の実践の場を提供・支援するため、大学生が講師となり小中学生に実演・解説などを行う科学教室を実施した。(平成22年2月・3月)</p> <p>【実績】3校 49名</p> <p>(北海道大学・千歳科学技術大学・北海道工業大学)</p> |
| 総合的な学習の受け入れ | <p>自主研修等を受け入れ、児童生徒らの質問対応などに応じることにより、総合的な学習への支援を行った。</p> <p>【実績】58校 754名</p> |
| 小中高生の職業(職場)体験の受け入れ | <p>小中学校及び高校からの依頼により、職場体験等、現場でしか体験できない学習活動への支援を行った。</p> <p>【実績】14校 101名</p> |
| 実験実習セットの貸し出し | <p>学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、学校の授業効果の向上に協力した。</p> <p>【実績】14校(団体) 17セット</p> |
| 教材教具の共同開発 | <p>理科授業等に役立つ教材教具を開発するために、市内中学校理科教諭の協力のもと、実験・実習セットを制作した。</p> <p>【実績】制作キット「エネルギー変換キット」</p> |
| 教員研修 | <p>教員を対象に授業やクラブ活動に活かせる観察・実験の紹介や実習を中心に研修を実施した。</p> <p>【実績】2回 32名</p> |
| 博物館実習の受け入れ | <p>大学からの依頼により、学芸員の資格取得のための博物館実習生を受け入れ、指導した。</p> <p>【実績】1期 3名</p> |
| インターンシップの受け入れ | <p>大学等からの依頼により、インターンシップを受け入れ、就業体験等を実施した。</p> <p>【実績】1校 1名</p> |

イ 天文事業の運営

(7) プラネタリウム投影

プラネタリウムの機能を活かし、天文に関する理解の増進に努めた。

| | |
|------------------|---|
| 一般投影 | <p>プラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。</p> <p>【実績】1,438回 81,871名</p> |
| 学習投影 | <p>小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。</p> <p>【実績】195校 15,263名</p> |
| 特別投影 | <p>天文に関する旬の話題や天文とは一見関係のない内容のものなどをテーマに掲げ、一般投影とは異なる内容・演出の投影を行った。通常開館時間では来館できない人へ鑑賞機会を提供するために、主に夜間に実施した。</p> <p>【実績】7回 1,076名 「星と音楽の夕べ」他</p> |
| イブニング プラネタリウム | <p>一般投影と同様の内容を夜間に実施することで、通常開館時間では来館できない人への鑑賞機会を提供した。</p> <p>【実績】4回 387名</p> |
| 字幕つき プラネタリウム | <p>耳の不自由な方などにも鑑賞の機会を提供するとともに、星の名前や用語などを視覚的に確認することで学習理解の手助けとなるように、字幕を付けた投影を行った。</p> <p>【実績】8回 297名</p> |

(4) 天体観望事業

天文台や移動天文車等を利用し、天体観望事業を実施し天文に対する普及啓発に努めた。

| | |
|----------------|--|
| 天体観望会 | <p>特別投影やイブニングプラネタリウムの機会に、科学館駐車場において移動天文車等を使った天体観望会を実施した。</p> <p>【実績】5回 432名</p> |
| 移動天文台 | <p>天体観測をする機会の少ない市民に、移動天文車等を使用し、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供した。</p> <p>【実績】32回(団体) 3,010名</p> |
| 札幌市天文台 夜間公開 | <p>中島公園という都心近接の立地条件を活かし、多くの市民に天体観望の機会を提供するために、日中だけでなく夜間も天文台を公開し天体観望会を実施した。</p> <p>【実績】36回 1,810名</p> |

(ウ) 教室・講座等

天文に関する理解を深めてもらうための講座や教室を実施した。

| | |
|------------|--|
| 星空の歩き方 | 天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、主に一般の方を対象として、宇宙・天文についての知識を深めるための講座を開催した。 【実績】3期（各6回）96名 |
| 大人のための星の学習 | 一般の天文に関しての初心者を対象に、天文学習の機会と実際の星空を観望する機会を提供し、天文基礎知識の普及に努めた。 【実績】2回 94名 「明るい星を覚えよう」他 |
| 親子天文教室 | 小学生とその保護者を対象に、天文に対する興味・関心を高めることを目的とした天文工作（手作り望遠鏡等）と天体観望を組み合わせた講座を実施した。 【実績】2回 115組 239名 「手づくりの天体望遠鏡で星をみよう」他 |
| 宇宙セミナー | 宇宙・天文についての興味・関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招いて最新の天文情報を提供する講座を実施した。（平成22年2月） 【実績】子ども向け31名／大人向け141名 「よくわかる国際宇宙ステーション」／ JAXA「きぼう」管制官/元青少年科学館天文指導員 村木氏 |

(エ) プラネタリウム祭り・劇空間利用

プラネタリウムの構造や装置について職員の解説付きで見学するプラネタリウム探検、星空を背景とした絵本の読み聞かせやコンサート、円山動物園の飼育員による解説との融合等といった企画による「第4回プラネタリウム祭り」を開催し、普段とは違ったプログラムを提供することで、プラネタリウムの可能性追求及びPRに努めた。（平成21年12月）

【実績】3,283名（全4日間）

(オ) 4次元デジタル宇宙シアター

天文に対する興味・関心を喚起するため、国立天文台が開発した宇宙の様々なスケールの構造や天体を立体的に見ることができるソフト『4次元デジタルシアター Mitaka』による宇宙空間の3D映像に、天文指導員による解説を交えて上映した。

（平成21年11月、平成22年2月）

【実績】実施回数82回 参加者数4,958名

(カ) 学校連携・支援事業等

小中学生を対象に、理科授業への支援の一環として「プラネタリウム学習投影」を実施した。（再掲）

ウ 共催事業

(7) 札幌市中学校 私たちの科学研究発表会（共催：札幌市中学校文化連盟）

市内中学校の科学クラブを対象にした研究活動発表会に協力した。

（平成 21 年 11 月）

【実績】 13 校 36 テーマ 266 名

(4) 科学技術週間事業「科学映画会」（共催：日本科学技術振興財団）

平成 21 年 5 月のゴールデンウィーク中に、科学技術週間に協賛して科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】 入場者数 439 名

(5) 青少年のための科学の祭典札幌大会（共催：日本科学技術振興財団他）

中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行う科学の祭典に参加・協力した。（平成 21 年 9 月）

【実績】 入場者数 2,017 名

(6) 気象講座（共催：日本気象学会北海道支部）

身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師による最新の研究・情報の紹介を交えた講座の実施に協力し、気象学の啓発を図った。

【実績】 参加者数 21 名

(7) 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」（共催：文部科学省、国立天文台 他）

宇宙の日（9 月 12 日）を記念して、小中学生から「宇宙に関する作文・絵画コンテスト」への応募作品の審査・表彰を行った。

【応募数】 作文 小学生 61 名・中学生 3 名

絵画 小学生 239 名・中学生 19 名

(8) 札幌市創意くふう作品展（札幌市創意工夫教育研究会 他）

小中学生の自由研究等で制作した応募作品の入賞者への表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【展示数】 82 点（応募数 370 点）

(9) 北海道青少年科学技術振興作品展（北海道発明工夫教育連盟 他）

小中学生が自由研究等で制作した応募作品の入賞者への表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【展示数】 61 点（応募数 126 点）

(10) 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

当別町にある道民の森と共催で、札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。（平成 21 年 5・8・9 月）

【実績】 参加者数 1 回目 77 名／2 回目 142 名／3 回目 80 名

(ケ)「さっぽろ星まつり」(共催：財団法人札幌市公園緑化協会)

市民の天文に対する興味・関心を深めるため、前田森林公園で、天体観望事業を実施した。(平成 21 年 8 月)

【実績】入場者数 5,000 名/2 日

【実績】2 日間延べ入場者数 5,000 名

エ 学習支援・情報発信事業

(7) 学校連携支援事業等

主に市内小中学校と連携を図りながら、学習指導要領に沿った理科授業や総合的学習への支援を行った。

(イ) 天文相談コーナー(星のへや)の運営

天文に興味を持った人の初歩的な疑問・質問を受け付けたり、代表的な天体望遠鏡や参考図書などを展示した天文相談コーナー「星のへや」を設けて天文学習の支援をした。

(ウ) ホームページによる学習支援・情報発信

科学館ホームページ内に科学トピックスやワークシート等を掲載し、最新情報の提供や学習の支援を行った。また、天文サイト内では、「天文 Q & A コーナー」を開設し、本で調べることが難しい天文に関する質問への回答を掲載した。

(エ) 「科学館ニュース」等による情報提供

「科学館ニュース」を館内に掲示すると共に、市内小中学校・幼稚園等へ毎月配布し、最新のイベント情報等を発信した。

また、館内 1 階エントランスホールに「天文ニュースコーナー」を設け、最新の天文情報を紹介した。

オ 利用者等の声を活かす取組

(7) 科学館運営協議会

学校関係者や団体等の学識経験者から科学館事業の検証や助言をいただく場を設け、科学館の運営に活かした。

(イ) 小学校・中学校連絡会

市内小学校及び中学校の理科教諭を中心に、科学館の在り方や、学校との連携方法等について、広く意見を聴取する場を設け、科学館の運営に活かした。

(ウ) 子ども科学会議

市内小学校の児童を中心に、科学館への要望や、あったらいい展示物など、広く意見を聴取する場を設け、科学館の運営に活かした。

(エ) アンケート

特別展や特別投影等、主な事業において、利用者に対しアンケートを実施し、その後の事業実施に活かした。

(2) 札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市の指定を受けて、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を適正に行った。

(支出額) 372,172,179 円

ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

また、ちえりあホール、陶芸室、焼窯室では、利用促進を図るため、引続き割引サービスを実施した。

イ 施設の有効活用

学習成果の発表の場として展示スペースの無料提供、受験生等に対する学びの場として空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行った。

(3) 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を適正に行った。

(支出額) 30,913,167 円

ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に教材制作を委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色あるビデオ教材を制作した。

【実績】新規制作教材数 6 本

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園、児童会館、市立図書館、町内会及びサークル等の団体に対して、学習活動に役立つ 16 ミリフィルム・ビデオ・DVD 教材の貸出しを行うとともに、新たな教材を購入し、教材の充実を図った。

また、平成 21 年 1 月より、ホームページ上で視聴覚センターが所蔵する自主制作教材のデジタル配信を新たに実施し、利用促進の充実を図った。

【実績】・教材貸出数：7,818 本

(内訳：幼稚園 393 本、小学校 4,819 本、中学校 1,026 本、

高校・養護学校 124 本、社会教育機関 1,456 本)

・新規購入教材数：38 本

・デジタルアーカイブアクセス数 概ね 32,000 件 (140 本)

6 **収益事業**

(寄附行為第4条第6号に掲げる事業)

(収入額) 19,421,334円 (支出額) 14,806,484円

(1) **売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)**

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

(2) **レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)**

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。